

ポーランド ニコラス・コペルニクス大学 日本語講座について

佐藤 秀樹

1. 機関概要

所属：コペルニクス大学 外国語センター

位置：選択科目

開講：1993年10月

今年度日本語担当：ロマン・S・インガルデン教授

佐藤秀樹

学生数（1995年6月現在）：

レベル	大学生	聴講生	計
初級1	12	3	15
初級2	4	6	10
上級	1	4	5

2. カリキュラム

- 初級1 『しんにほんごのきそ1』第1課～第13課（一年目）
- 初級2 『しんにほんごのきそ1』第14課～第25課（二年目）
- 中級1 『しんにほんごのきそ2』第1課～第13課（三年目）
- 中級2 『しんにほんごのきそ2』第14課～第25課（四年目）
- 上級 『日本語ジャーナル』（五年目）
- その他 漢字クラス・会話クラス

時間数

各クラス 週1.5h×2

漢字・会話クラス 週1.5h×1

3. 学習者の専門・職業

大学生－文学部・法律学部・経済学部など

聴講生－教授

語学講師

高校生

小学生

トルンにおける日本語講座は、10年前から1992年まで物理学者のインガルデン教授が、大学の教室を借用し個人的に教えていた。そして1993年度から、コペルニクス大学外国語センターの選択科目として正式に講座が設けられ、現在まで続いている。選択科目になったことで専門の日本語教師が必要になり、青年海外協力隊に要請があって現在一名協力隊員が派遣されている。

この講座は大学の選択科目ではあるが、第二及び第三外国語の選択科目として登録していなくても自由に受講することが出来る。又、聴講も可能であるため、大学教授や小学生などいろいろな立場の人々が学んでいる。それらの学習者が日本語を受講した動機は様々である。以前から日本の歴史や文化に興味があったり、武道を通して日本に興味をもったり、経済発達に関心があったり、またはただ何となくという人もいる。

問題点

コペルニクス大学日本語講座における問題点は以下の四点である。

1. 日本語専門の教師陣の不足
2. 教材の不足
3. ポーランドの学習者の興味によりあった教科書がない。
4. 学習者の動機・目的がまちまちなのでレベルにかなりの差がでる。

活動の状況

1. 94年度日本語弁論大会にコペルニクス大学として初参加(一名) 特別賞受賞
2. 95年度よりコペルニクス大学文学部に日本語講座の研究室を設置
また、日本語講座の一部もそこで行われる予定

今後の展望

コペルニクス大学の日本語講座は、今年度までは外国語センターのみで行われてきたが、95年度より文学部でも講座が開かれることになった。以下がその内容である。

- 言語学(アルフレッド・F・マイエピッチ教授)
- 日本語文法(ロマン・S・インガルデン教授)
- 日本の歴史(クシシュトフ・ステファンスキ教授)

その他

- ・インガルデン教授、日本文化を広めた功績により文化勲章受賞(勲3等)95年1月
- ・コペルニクス大学を中心に『トルン日本文化週間』を開催(94年5月、95年4月)